



資料1 大磯町の女性議員数の躍進を伝える「ハラルド朝日」紙面

増えたことに加え、従来の「地区代表・名誉職型」の議員数名が引退し、新人が8人になったこともあって、自分たちが活動しやすく、町民にわかりやすい議会にしたという機運があった。大磯町議会は「新人だから」「女性だから」と先輩議員から発言を阻止されたり、行動を制限されたりすることはなく、誰でも自由に意見を述べ合える雰囲気

礎調査などを行う傍ら、緑地保全やごみ問題にも取り組んでいた。時には議会の傍聴もしてはいたが、いざ議会に入ってみれば、聞きなれない行政用語や、法令、地方自治法、議会の規則など、知らないことばかりだ。無所属のため新人向けの勉強の機会もない。時には職員に聞き、セミナーや研修に参加し、独自で勉強する日々であった。

重大な事案に賛否を表明することの責任の重さを実感することも

進んだ議会改革

2003年の選挙では、女性が

2008年(平成20年)に全国町村議会議長会より「議会活性化」で表彰を受けた。その後、2009年(平成21年)に議会基本条例を施行して、一般会議や議会報告会を実施、すべての協議会の公開などを早いスピードで実現し、早稲田大学マニフェスト研究所「議会改革度調査2010」において全国第5位(町村では1位)となった。

2013年(平成25年)に、議案審議に二問一答方式を導入、2021年(令和3年)には議案質疑に時間制(10分)の一問一答方式を導入した。コロナ感染症が拡大する中でも感染対策に取り組み、定例会を通常通り開催し、議会報告会も当初1回中止したが、IT環境が十分整備されていない中で工夫を重ね、会場とオンラインで年2回実施している。

監視機関として

議会改革を進める一方で、知見を有効的に活用して議会の監視機関としての役割を果たしたこともある。

① 厨芥類資源化施設の中止

大磯町では隣接する平塚市及び二宮町とのごみ処理広域化を2006年(平成18年)から進めていた。当初大磯町の分担は厨芥類(野菜屑などの生ゴミ)資源化施設と、し尿処理施設であった。

総務建設常任委員会は、閉会中の所管事務調査として1市2町の検討内容の報告を受けていた。

私は厨芥類資源化施設の効果に大きな疑問を持っていたため、議長になって2012年(平成24

連載第10回 男女同数議会誕生に立ち会って

これまでの議員生活を振り返る

わたなべ じゅんこ 渡辺 順子 神奈川大磯町議会議員

プロフィール

1946年神奈川県小田原生まれ。東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒。2003年初当選。2007年～2009年副議長(女性副議長4代目)。2011年～2013年議長(女性議長4代目)。総務建設常任委員会委員長、議会だより編集委員長、議会運営委員長を務める。現在5期目。



Key Points

- 自由に意見を述べ合える環境が改革を育む
- 多様な視点を尊重するのは同数議会の利点
- 1967年の女性議員誕生以降の先人の活躍が支えとなる

このたび「男女同数議会誕生に立ち会って」というテーマを編集部よりいただいた。2003年、全国初の女性比率50%になって注目を集めた大磯町議会の20年間の歩みなどをお伝えできる機会と受けとめ、有難くお受けした。私見のな面もあるが最後までお読みいただければ幸甚である。

はじめに

私が初当選した2003年(平成15年)の選挙で大磯町議会は定員18人中9人の女性が当選した。全国初の女性比率50%の議会として多くのメディアに取り上げられ、注目を集めた。人口3万人ほどの小さな町でなぜこのようなことが起ったのか、と今は廃刊になっている「ハラルド朝日」(英字新聞、資料1)にも掲載された。

議員になって

私は議員になる8年前、「大磯町環境基本条例策定研究会」の町民委員を務め「まちづくり条例」と「緑の基本計画」素案策定の基

一緒に選挙を戦い、初当選した先輩の女性と支持者に支えられて私の議員生活がスタートした。

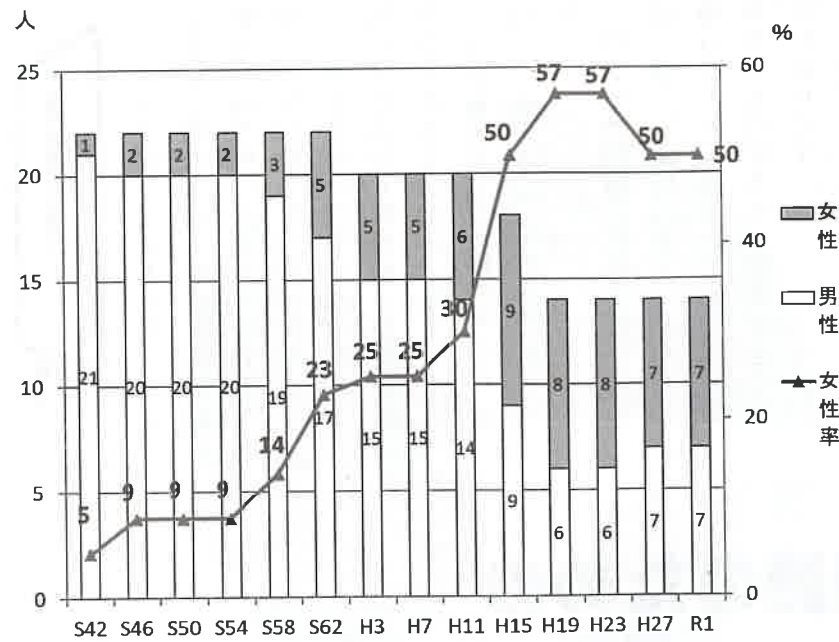
しかし、大磯町議会には選挙前にすでに6人の女性議員がおり、かなり前から議員選挙に女性が出ることは特別なことではなかった。この選挙で立候補した女性は11人、その内9人当選しても町内では大きな反応はなかったと記憶している。

子どもが真っ先にお祝いに駆けつけてくださったり、県内の某市長から、ご自身が主催する研究会で議会の紹介をするようにお招きをいただいたり、各方面で大きな出来事と受け止められた。

しかし、大磯町議会には選挙前にすでに6人の女性議員がおり、かなり前から議員選挙に女性が出ることは特別なことではなかった。

この選挙で立候補した女性は11人、その内9人当選しても町内では大きな反応はなかったと記憶している。





資料4 大磯町の女性議員数の推移



資料5 大磯町議会議員の議場集合写真

駅の構内の広告看板を撤去するよう当時の国鉄に要請したため、今でも駅構内に広告看板は1枚も無い(資料3)。

このような特性を持つ町に女性議員が誕生したのは1967年(昭和42年)である。それまで町民が聴いたことがなかった街頭演説を行いトップ当選し、幼い子ども

もを保育園に預けながらの議員活動だったようだ。

彼女は1期しか務めなかったが、次の1971年(昭和46年)の選挙で2人の女性が当選した。一人は60歳を過ぎていたが、3期務めるなかで教育委員を3人から5人に増やし、その中に女性議員を入れた。もう一人は7期を務

め、初の女性副議長と議長に就任した。1985年(昭和60年)町議会の女性比率が0・9%の時代である。これら先人たちに触発され、後に続く女性が増えたことは想像に難くない(資料4)。

さらに、特徴的なことは、1970年〜2000年前半の大磯町には、高度経済成長に伴って発生した公害やバブル期の土地開発ブームから大磯町の自然や住環境を

結びに

全国1741地方議会ですぐに女性ゼロの議会が298ある中で、20年間女性比率50%を維持している大磯町議会は稀有な存在と言えるだろう。

しかし女性に限らず、これから問われてくるのは議員としての資質である。自由闊達も一歩間違えば自由奔放になる。

女性が活躍できる議会を築いてくれた先人たちに感謝しつつ、現状に甘んじることなく、さらに進化させ、次代へ引き継ぐ責任を実感している。



資料2 議場に登壇し条例を提案する筆者



資料3 構内に広告看板を設置していない大磯駅

先進地視察や執行部も入って研究を重ね、2014年(平成26年)12月定例会で委員会所属の7名で「大磯町省エネルギー及び再生可能エネルギー利用の推進に関する条例」を提案し(資料2)、全会一致で可決した。

これらのことで2016年(平成28年)全国町村議会議長会から「特別表彰」を受けた。

なぜ女性議員が増えたのか

見書も数多く出した。今回は割愛するが直近では「福島第一原子力発電所事故による汚染水の陸上保管を求める意見書」がある。

「女性議員ならではの、と言えることが何かできましたか」と聞かれることがあるが、議会改革や監視機能の強化などが実現できたのは、議員個人の多様な視点を尊重する「同数議会ならではの」だと思っている。

執行部の姿勢を質す

一般質問は議長を除く13名中毎回10〜13名が行っている。通告制だが再質問以降の質疑・答弁を読みあう場面はあまりなく、真剣勝負だ。

2012年度予算は附帯決議を付けて可決、2011年度決算は不認定、2013年度と2022年度(令和4年度)予算は修正可決だった。

提出した意見書

時々の社会状況に応じて国へ意

大磯町は東京から約1時間、神奈川県南部の相模湾に面した人口約3万1500人の小さな町で、海と山の豊かな自然と温暖な気候に恵まれている。明治期に初代内閣総理大臣の伊藤博文をはじめ、政財界の重鎮の別荘地として発展し、別荘文化が開花した。この伝統は昭和期にも引きつがれ、文化人も多く移り住んだ。

戦後になると別荘を本拠地とする人が多くなり高級住宅地に変化した。そのため大磯駅には東京駅に次ぐ駅長が配置されたと聞く。また昭和20年代に文化人数名が、

年)9月、長野県在住の環境科学者を講師に招き、町長以下執行部も参加する議員研修を行った。

その後施設の建設費、維持管理費、環境負荷について検証した結果、2013年、厨芥類資源化施設の整備は中止され、代わりにリサイクルセンターを建設することになった。

②エネルギー条例の制定

2013年、議会改革の一環として、常任委員会の任期満了までの2年間で研究テーマを決定することにした。

私が委員長を務める総務建設常

任委員会では、私の議長時代の2011年(平成23年)に起きた福島第一原子力発電所の事故後、多くの乳幼児を持つ家庭を中心に放射能の影響への不安が高まっていることを受け、女性議員7名(この時は定員14名中女性が8名だった)で命を産み育む女性の立場から「新しい日本のエネルギー政策を早期に求める意見書」を国へ提出したこともあり、「原発に代わる安全なエネルギー」を研究テーマとした。

法政大学から講師を招き地域の自然エネルギーの大切さを学び、